



研究者などの交流も

浜通りトライデックで総会

一般社団法人福島浜通りトライデック（緑川浩司代表理事）は七月二十三日、東日本国際大学で、第二回社員総会を開いた。同社は、米国内の原子力兵器開発で汚染された地域を復興させたハンフォード地区をモデルに、高等教育機関、国立研究所、地方公共団体、地域産業界などの利害関係者らの調整を図る目的で二〇二二年三月に設立

された。

総会では、定かんの変更、二二年度の事業報告、二二年度の事業計画、予算などを審議可決。二二年度の事業の一環として刊行された『福島浜通りトライデック』その課題と展望』が関係者に配られた。

定かんの変更点は、福島浜通りを活性化するための連携教育プログラム事業に関する項目の



国際研究教育機構との連携を説明する内田市長（左）

追加。

同大とハンフォード地域の大学、短期大学の包括連携協定の締結。学生、県内の自治体首長、企業関係者などの同地域への派遣、両地域の研究者間の交流などが、新たに事業計画に盛り込まれた。

会後半では、内田広之いわき市長が講演。国が推進する「創

世界中に多くのファンを持つ。

東月で「リヤドロ展」初の「屋久杉展」も

9月30日～10月3日

自由ヶ丘、人形の東月いわき総本店（脇山智彦社長）は、九月三十日～十月三日の四日間、恒例の「大リヤドロ展」を開く。スペイン初のポーセリンアート（磁器芸術）ブランド「リヤドロ」は、人生の美しい瞬間や躍動感あふれる生命の姿など、無限の造形美の可能性を追求したトップアートとして知られ、



四百点以上の最上級作品が並んだリヤドロ展。昨年

造的復興の中核拠点」の福島国際研究教育機構との連携について、市の現状説明と、今後の取り組みについて解説した。

小規模斎場の「船尾山」9月、常磐にオープン

葬祭場を営む、遠野町、遠野造花店（中野光社長）は九月一日、常磐地区内に小規模斎場「やすらぎの杜 船尾山（ふなおざん）」をオープンする。

民家を改装した斎場で、家族葬から中規模な葬儀までに対応。通して利用できる和室に椅子を設け、靴を脱ぎ、ゆっくりと故人との別れの時間を過ごせるよう、昔ながらの「自宅での葬儀」をイメージして執り行っていく。

中野社長は、「一番のテーマは、自宅での安らぎ。生かされている人の都合ではなく、いかに故人を送り出せるか、という部分を考えて運営していきたい」と、話している。

場所は、常磐下船尾町作六二。詳しくは、同社（電話



「自宅での葬儀」をイメージする船尾山

薄毛解消プログラム トップが提供中



薄毛解消を目指す「アルティバ成毛プログラム」

小名浜愛宕町、「ヘアーサロン・トップ」（村上清十郎社長）は、独自の薄毛解消プログラム「アルティバ成毛（せいもう）プログラム」を提供中。

同プログラムは、六カ月で成毛のノウハウを詳しくレクチャー。月二回（計十二回）のヘッドスパと、サプリメント、ローション（トニック）による頭皮ケアを行い、早ければ四～五カ月で効果が実感できるといふ（個人差あり）。

村上社長は、「トータルで四十年以上、髪にかかわる仕事をしてきた。そこで得た知識と経験をもとにプログラムを組んだ。自分の髪が変化する喜びを感じてほしい」と、話している。現在、先着五人限定で、六カ月コース税込み・三十万円を同・二十七万円提供している。相談・カウンセリングは無料。問い合わせは、同店（電話五四一三〇三〇）まで。